

東北沿岸部女川町を訪ねて



本校教員が8月9日に宮城県女川町を訪ねました。復興の足がけとして今年の3月からJR女川駅が復旧したので、実行委員の生徒たちも短時間でしたが様子を見ることが出来ました。その時の感想を聞くと、新しい駅舎の周りにはまだ何もなくて被害と復興の進捗を比べるには難しかったようです。女川町は震災以前、人口1万人ほどの小さな町でしたが、天然の良港として、カキやホタテの養殖をはじめ、さんまの水揚げ量は日本で2・3位を争う活気ある町でした。そして、町の南には東北電力の女川原子力発電所が誘致されていたため、日本のエネルギーを支えていた点においても注目されていました。

震災によって町民872名が死者・行方不明者となり、「復興そのものができるかわからなかった」とその日に地区の方からお聞きしました。以前、轍で紹介したドキュメンタリー映画「さんまとカタル」の内容の中でも、復興そのものを根本的に見直さなければならなかったと言います。福島第一原子力発電所の事故による海産物の安全が疑われたように、女川原子力発電所があった影響もあって、町の津波対策だけではなく、産業が継続できるかどうか危ぶまれていました。しかし若い町民のイベントの開催や宣伝の努力によって、駅前広場の先には少しずつ商業テナントや交流会館が建てられました。住民の居住区は高台へ、食品加工や商業地は見晴らしの良い場所に作られ、清々しい女川へと生まれ変わっています。



魅力あふれる女川町へ!!

あの震災から5年半が経ち、「高台へ逃げろ～」を合図に走り出す「津波伝承 女川復幸男」も続けられるそうです。

「祭り」を通して、津波の怖さを後世に伝えるイベントです。

みんなが楽しみにしている「おながわ秋刀魚収穫祭」も9月25日に行われます。産地からそのまま振舞われる食のイベントは町一番のイベントでしょう。

皆さんも秋の女川さんまを見かけたら、食卓のせきにいかがですか。復興に向けて私たちも応援続けましょう。



夏祭り被災地応援活動

私たちは、7月30日（土）新大宮商店街で行われた夏祭りに総勢25人が参加しました。
わた菓子を作ったり、スーパーボールすくいなどしながら、東日本や熊本への募金を訴えました。

初めて参加した中学1年生の感想は…参加できてよかった！来年も参加したい！

地域の方々との関わりがとても楽しかったです。「よう頑張ってるね」と声をかけてもらい、地域の方の優しさを感じる事ができました。

家が流され、大切な人を失った人のために役に立てたと思います。これからも「自分には何ができるか」考えていきたいです。

去年お祭りを見に行った時、活動しているのを見て平女に入学して、自分が活動に参加できて嬉しかった。スーパーボールを楽しんでやってくれよかった。

スーパーボールを担当して「このお金も募金になるの」と聞かれ「はい」と言ったら「ではします」と言ってくれたのが本当にうれしかった。

売り上げが募金になるというのがすごいと思いました。私はこの経験をして、将来人の役に立つことをしていきたいと思いました。

心の温かい人が多いと実感しました。少し声をかけるだけで沢山の募金が集まりました。復興の力に少しでもなれてよい行いをしたと思いました。もっと活動をします。

2年生は、昨年の経験を十分生かして、積極的な呼び込みを元気いっぱい声に出して頑張りました！



高校生はもうベテランです。難しい綿菓子作りも慣れた手つきでスイスイ。子どもたちへの対応も抜群。綿菓子を買う長い行列を見て、校長先生も思わず手助けしてくださいました。

今年、私たちは、わた菓子の販売するお手伝いをしました。地域の方にわた菓子の作り方を教えていただいて、地域の方と触れ合うことが出来ました。保育園実習で出会った子どもたちもわた菓子の列に並んでくれてとてもうれしかったです。

当日の募金は、11万円を越しました！クリスマスプレゼントを被災地に送る資金にします。